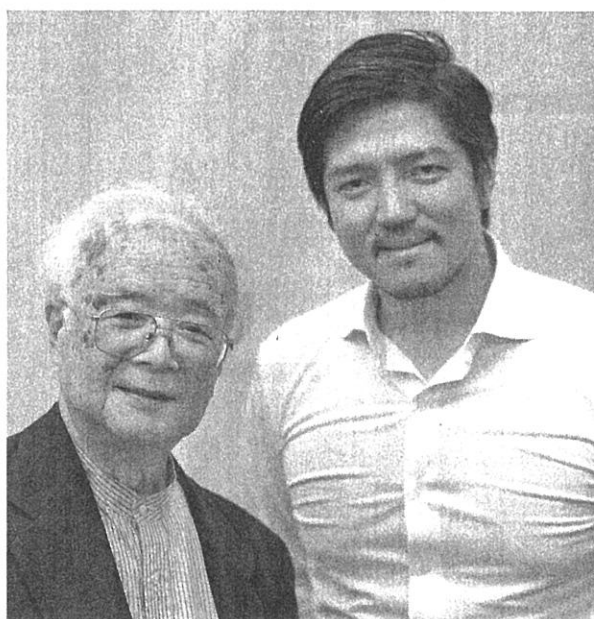


下記の記事は2022年10月5日に紀尾井ホールで行われました、小林道夫氏と大西宇宙氏のデュオリサイタルに先んじて、9月16日の読売新聞の夕刊に掲載されたものです。私は当日出向いて聴いてまいりました。大変素晴らしく、感動いたしました。11月27日の例会には、小林氏は特別講演として、“ドイツ歌曲及びピアノ伴奏法の公開レッスン”、大西氏は“現役声楽家の歌とお話し”のコーナーに、お二方それぞれご登壇いただきます。下記の記事をお読みいただき、お一人でも多くの方々に例会にご出席いただきますよう心からの願いを込めてお送りさせていただきます。

川上

89歳と36歳 リート共演

ピアノ 小林道夫 バリトン 大西宇宙



「『声』がなくても『歌』になる。それがリート（リートの神髄です）と語る小林（左）と大西

オペラを中心に活躍する人気バリトン歌手の大西宇宙(36)と、日本におけるリート(ドイツ歌曲)伴奏の第一人者、ピアニストの小林道夫(89)が共演する。ジャンルも世代も異なる2人を意気投合させたものは何か。(松本良一)



ドイツ語 正統的発音 × 第一人者の伴奏

アメリカのシカゴ・リリック・オペラで研さんを積み、ニューヨークを拠点に数々の国際舞台に出演する大西。かたやフィッシャーディースカ

アメリカのシカゴ・リリック・オペラで研さんを積み、ねてきた小林。今なぜ共演なのか。きっかけは2020年国際舞台に出演する大西。かに日本製鉄音楽賞で大西がフレッシュアーティスト賞、小

林が特別賞を受賞したことだった。

「受賞記念コンサートでベートーベンの歌曲入選かなる恋人に寄せて」を共演し、小林先生の音楽にすっかり魅了された」と大西。豊かな経験と節度を保った演奏から生まれる自然な息遣いが魅力と話す。小林は「大西さんのドイツ語は、現代風の崩れた口語

調ではなく、リートにふさわしい正統的な発音ですばらしい」と高く評価する。

リート（リートの神髄について小林は、「歌詞を正確に理解した上で想像力を飛躍させること」と説く。一方、オペラは何より美しい声が必要だ。大西は「オペラでは華やかさが求められる反面、派手なだけで中身の無い歌唱に陥る危険がある。だから音楽の内面を深めることが求められる。リートは大事な経験です」と語る。2人は10月にコンサートを開く。受賞記念で歌ったベ

ートーベンの曲に加え、シューマンの「詩人の恋」とシェーンベルクの「二つの歌曲」を取り上げる。大西は「三つの異なる時代の歌曲それぞれのスタイルの違いを表現したい」と意気込む。小林は、リート（リートの様式美に則した感情表現を重視しつつ、「大西さんには自由に歌ってもらえれば」と手綱を渡す。

披露する曲は既に録音もされ、キングインターナショナルから10月に発売される。「録音は繰り返し聴くものですが、コンサートは一回限りの生もの。貴重な経験を通して小林先生の音楽のエッセンスを継承したい」(大西)。「この年齢になって、ようやく全身で音楽を奏でる要領がつかめてきた。スタートラインに立ったつもりで臨む」(小林)。まさに一期一会の演奏になりそうだ。

10月5日午後7時、東京・四ツ谷の紀尾井ホール。チケットは同ホールウェブチケット(<https://kiiohall.jp/tickets/>)。